

## 第2章

### 山武市の景観

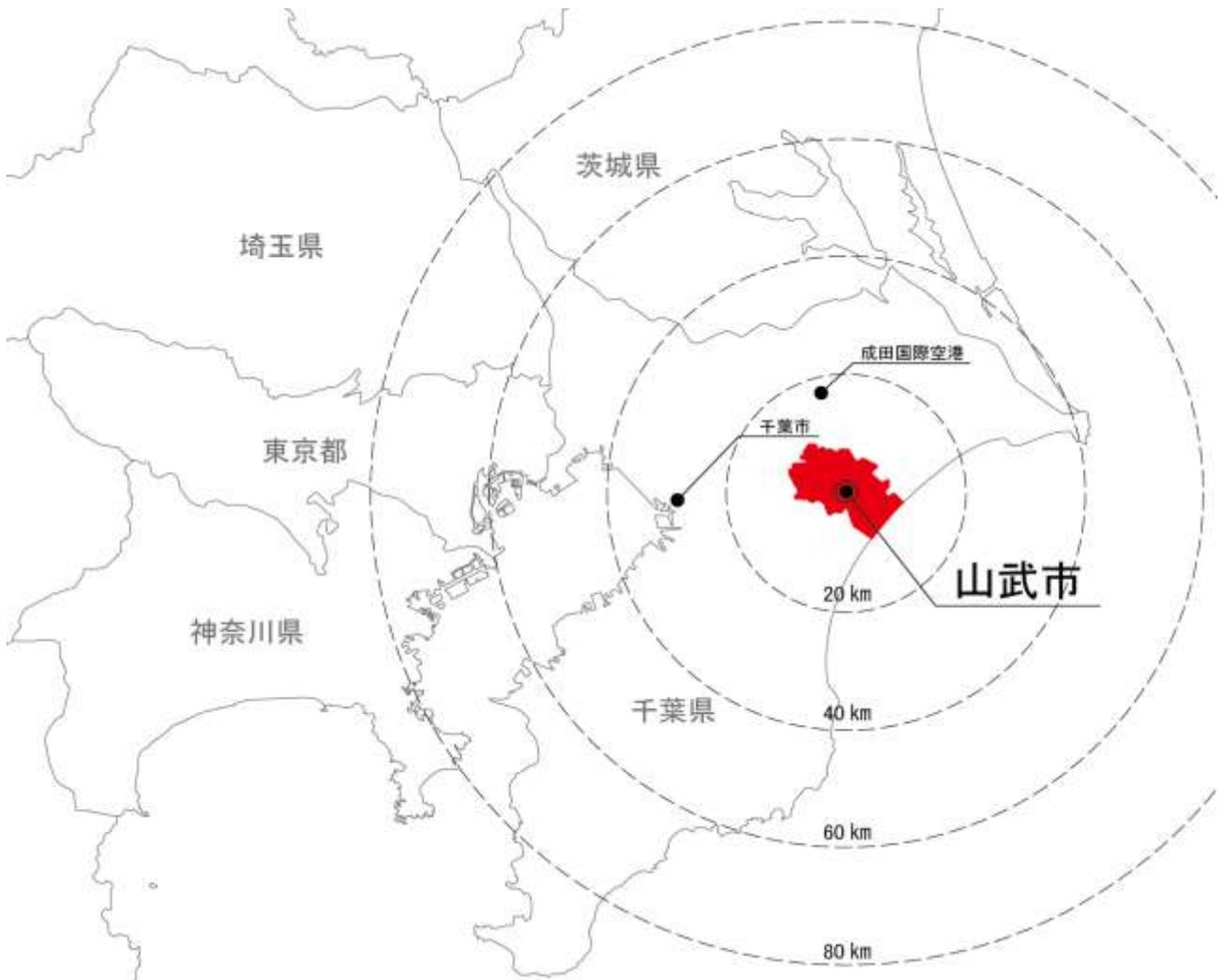
～山武市にはどのような景観があるのか？～

## 2-1 山武市の概要

### (1) 位置・地勢

本市は千葉県の東部に位置し、県都千葉市や成田国際空港まで約10～30km、都心へも約60km圏内に位置しています。日本の白砂青松100選にも選定された九十九里海岸の中央部で約8kmにわたって太平洋に面し、総面積は146.38km<sup>2</sup>です。

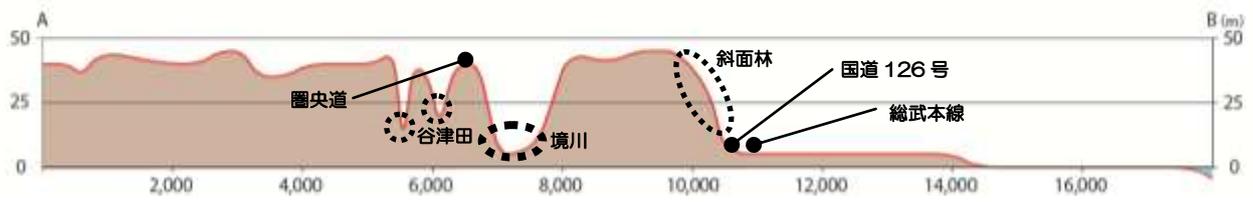
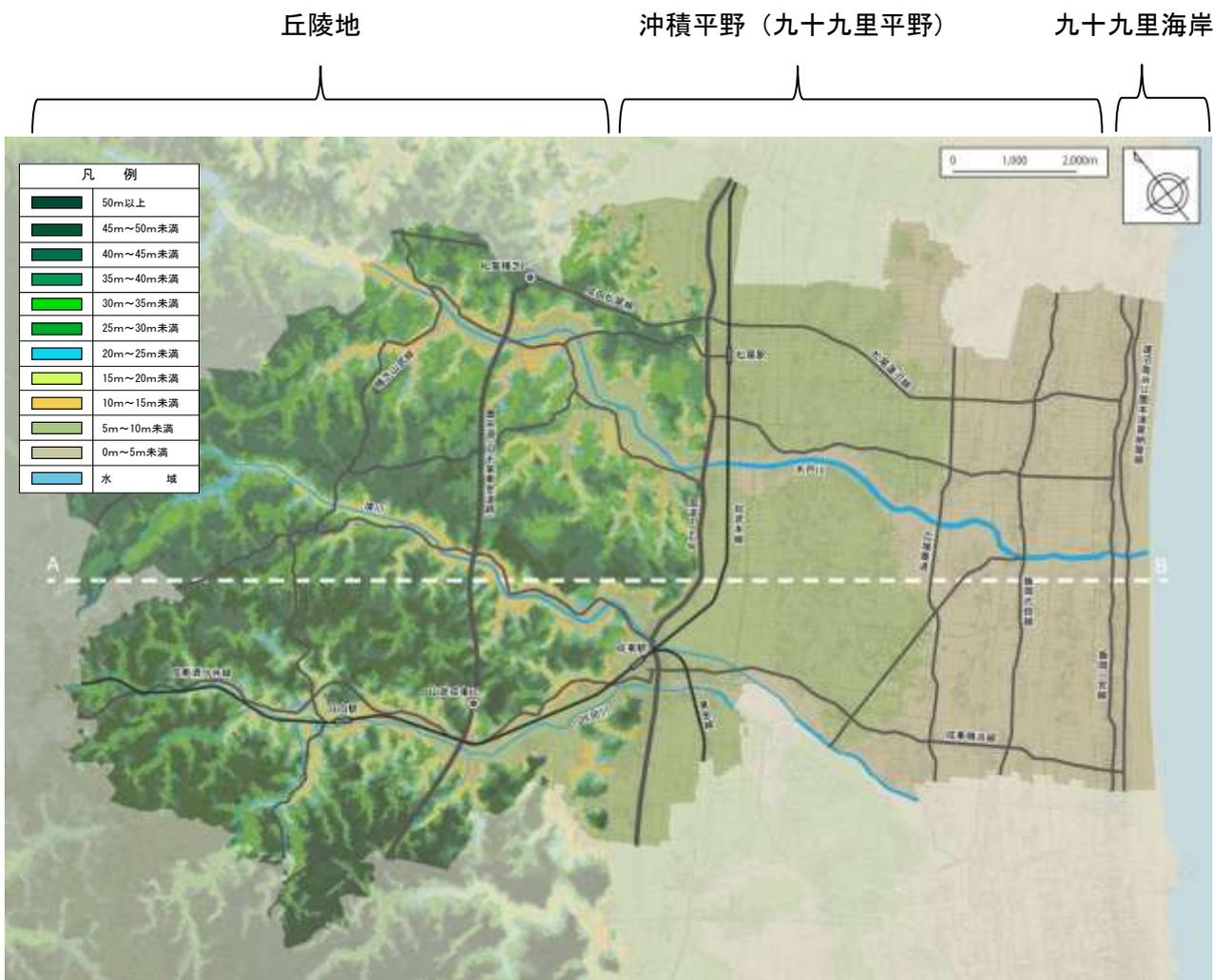
市内は、肥沃な土壌と温暖な気候を活かして、県内でも有数の農業生産額を誇り、稲作はもとより野菜や果実の生産も盛んで、サンプスギなどの林産物、九十九里浜の海の幸と、自然の恵み豊かな地域です。また、一年を通じて温暖な気候で、観光リゾート地として海水浴やサーフィン、テニスなどのスポーツも楽しめる多様な地域資源を有しています。



(2) 地形

本市は大別して、遠浅の海が広がる九十九里海岸と、九十九里平野と称する肥沃な土壌を持つ沖積平野、標高 40~50mの低位台地からなる丘陵地で構成されており、これらは海岸線にほぼ並行に、帯状に展開しています。

なお、丘陵地には、台地に入り込んだ小河川が造る樹枝状の細い谷の谷津があり、その多くは谷津田として利用されています。また、その谷津田を束ねるように、木戸川・作田川・境川等の河川が流れ、丘陵地から九十九里平野を経由して太平洋に流入しています。



(3) 歴史概要

【旧石器～古代】



大堤権現塚古墳



不動塚古墳

◆市内に最初の人類の足跡が見られるのは、今から約2万8千年前の後期旧石器時代です。市内の遺跡は川に沿った台地上に多く分布し、木原の鷲山遺跡や横田の辻遺跡等の縄文時代、嶋戸東・早船・田越の弥生時代の遺跡、台地上には古墳群が広範囲に分布し、500基以上の古墳が確認されています。関東でも例の少ない三重周溝の大堤権現塚古墳や、群内最大の方墳駄ノ塚古墳を有しています。また、九十九里平野の陸地化は今から9千年前の縄文時代早期と考えられており、河川が運ぶ土砂によって陸地化したのではなく、海の後退により陸地化したと考えられ、低地にも縄文～古墳時代の遺跡が確認されています。

◆律令国家が成立すると、本市は山邊郡や武射郡に組み込まれ、奈良時代には、武射郡寺である真行寺廃寺が建立され、近接地の嶋戸東遺跡では武射郡衙跡が確認され、武射十一郷の中心であったことが確認されました。

【中世～江戸時代】



成東城跡公園



サンプスギ



「上総道学発祥の地」  
記念碑

◆鎌倉時代には、上総国山辺庄に含まれ、千葉氏の支配下にあり、木原城・成東城・津辺城・山室城等が築城され、その後、江戸時代には幕府領、旗本知行地、結城藩水野氏の領地となります。現在でも成東城跡公園、そのほか津辺城・山室城にも土塁、空堀などの遺構を見ることができます。

◆江戸時代の人々の多くは農業に従事していましたが、17世紀後半に九十九里浜で地引網漁の普及に伴い、鰯漁などが盛んになり、漁船に用いる材木として植林されたのがサンプスギの始まりと言われています。

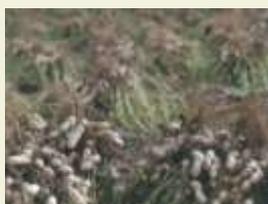
◆江戸時代半ばの1703年には、地震による元禄大津波が九十九里浜一帯を襲い多くの犠牲者を出しました。現在も本須賀と松ヶ谷には当時の犠牲者を供養する百人塚、千人塚が残るほか、蓮花寺にも千人塚・八十八石仏が建立され、津波の記憶を今に伝えています。

◆江戸後期には、儒学者稲葉迂齋に師事した和田守道（儀丹）・鈴木庄内（養察）・迂齋の子黙齋らによって上総道学が農民の間にも普及しました。大橋の河川堤には「上総道学発祥の地」の記念碑が建立されている他、稲葉黙齋などの墓が残されています。

## 【明治期～現代】



旧松尾藩主居宅の長屋門

成東駅の魁  
(さきがけ)の碑

落花生



保安林



両総用水第3揚水機場

◆1869年には掛川藩主太田資美が転封し、三稜郭の松尾城を築城しましたが、1871年の廃藩置県により廃城となりました。現在も松尾中学校の外周部には高台の地形を活かして周囲にめぐらした「胸壁」、松尾自動車教習所には藩庁跡が残るほか、松尾町大堤には旧松尾藩主居宅の長屋門が移築されており、その移築物を見ることが出来ます。

◆明治時代には安井理民らの尽力により総武鉄道が敷設され、1897年に成東駅が開業し、地域の発展に大きく寄与しました。また、この頃文学や短歌において活躍した伊藤左千夫の生家が殿台に残るほか、市内各所に歌碑が残されています。

◆千葉県は落花生の栽培が盛んなことで知られていますが、1876年に落花生の栽培をはじめ、県内に広めたのが草深出身の牧野萬右衛門であり、草深は落花生栽培発祥の地と呼ばれます。丘陵地域を中心に、市内にも多くの落花生畑があります。

◆九十九里海岸では、古くから飛砂や潮風を防止する保安林が造成され、幾度かの乱伐や荒廃を経て、戦後も再び人々の暮らしを守るために保安林の造成が始まり、「白砂青松」の原風景とうたわれるようになりました。昭和30年前後の昭和合併により、本地域は成東町・松尾町・山武町・蓮沼村の3町1村に編成されました。

◆その後、昭和40年に竣工した両総用水事業では利根川から水を引くことで、河川改修や新田開発の影響で問題となっていた九十九里平野の用水不足が解消され、この事業を経て、九十九里平野は県を代表する穀倉地帯へと大躍進し、現在の山武市の特徴とも言える田園景観が形成されました。

◆昭和53年の成田空港の開港を受け、昭和61年には主要地方道県道成田松尾線（芝山はにわ道・空港道路）が開通し、平成10年には千葉東金道路が延伸され、現在では、首都圏中央連絡自動車道として松尾横芝ICから木更津ICまでが開通し、首都圏各地との交通ネットワークが発達しました。

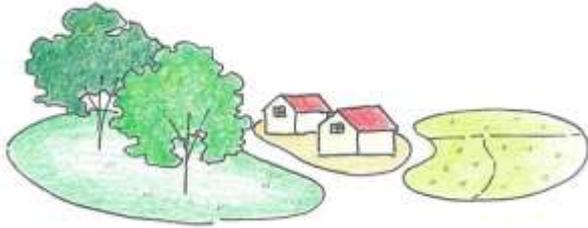
◆平成18年3月には蓮沼村・松尾町・山武町・成東町の4町村の合併が行われて山武市となり、現在に至ります。

## 2-2 山武市の景観資源

### (1) 景観資源の分類

「景観」は、田園のような面的な“広がり”のある景観や河川のように“連続性”のある景観、文化財のように“地域のシンボル”となっている景観等、様々な要素から構成されています。

そこで、山武市の景観を把握するために、大きく5つの要素（面的要素、線的要素、点的要素、広域的要素、無形的要素）から景観資源を抽出します。

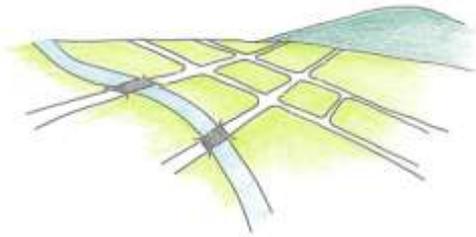


#### ■面的要素

個々の資源が複数集まり、一体的で広がりのある印象を持たせる資源を指します。

##### [景観資源]

田園、谷津田、丘陵、斜面林、海岸、市街地



#### ■線的要素

道路や河川等の連続性を感じさせる資源を指します。

##### [景観資源]

河川、道路・沿道

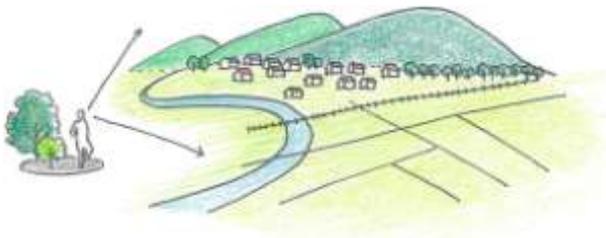


#### ■点的要素

地域のシンボルや目印となっている単体の資源を指します。

##### [景観資源]

公園・拠点、文化財、古木・巨木、その他の自然、その他の史跡

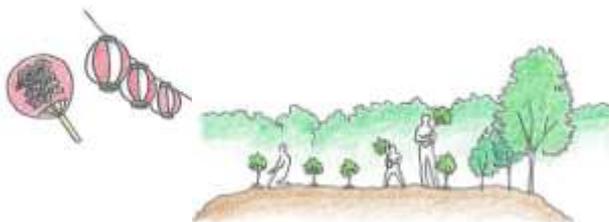


#### ■広域的要素

点・線・面の要素が重層的に重なり合った大きな眺めを指します。

##### [景観資源]

眺望



#### ■無形的要素

広く市内で行われている活動や地域の伝統行事、イベントなどの活動を指します。

##### [景観資源]

まちづくり活動、祭り・伝統芸能、イベント

その上で、抽出した景観資源を、山武市の地形や歴史等の特徴に応じて、以下の5つの類型に整理しました。以降、この類型を基に、景観特性や方針等について整理します。



## 水・緑

景観の骨格を形づくる水と緑の自然環境

田園

谷津田

丘陵

斜面林

河川

海岸

その他の自然



## 暮らしの場・まちなみ

人々の生活を表す暮らしの場・まちなみ

市街地

道路・沿道

公園・拠点



## 歴史・文化

先人たちの足跡を示す歴史・文化

文化財

古木・巨木

その他の史跡



## 活動・人の営み

彩りやにぎわいを与える人々の活動・人の営み

まちづくり活動

祭り・伝統芸能

イベント



## 眺望

広さを実感できる眺望

眺望

(2) 類型別の景観特性

■水・緑



九十九里平野に広がる田園



サンプスギ並木



サンプスギの森と広がる丘陵地



市街地を流れる作田川



田園の合間を流れる木戸川



九十九里海岸（日本の渚100選）



保安林（津波被害前）



成東・東金食虫植物群落



ハマヒルガオの群生地

### 現況：景観の骨格を創るさんむの水と緑

丘陵地では、サンプスギなどの森と赤土の畑が調和した風景が広がり、谷津田では今では貴重となるホタルを見ることができます。

また、江戸時代に九十九里浜で鰯漁に使う木材の確保のために植林が始まったとされる“サンプスギ”は、丘陵地の多くを占め、木材は建築材料や高級建具として利用されています。

さらに、丘陵地から太平洋へ流れる作田川や境川、木戸川が創り出す水辺景観、北総台地と九十九里平野の境目の崖に連なる帯状の斜面林が見られます。

九十九里平野に広がる田園では、稲作期になると黄金色の絨毯がどこまでも広がり、ハマヒルガオの群生や、アカウミガメの産卵地であるなど多様な動植物の生息地となっている海岸では、白い砂浜や緑の松林が見られます。

こうした地形が創り出す豊かな水と緑の自然環境は、山武市の原風景であり、景観の骨格となっています。

### 課題：深刻化しつつある水と緑の景観の喪失

維持管理の困難、収益性の減少、後継者不足等により、休耕田や耕作放棄地の増加、山林の荒廃が目立つようになっています。

また、圃場整備により、生産性の向上が図られた一方で、田んぼの生き物が減少しています。

さらに、道路や河川・水路等の日常生活の場や海岸でのゴミ捨てなども見られます。

その他、白砂青松とうたわれた九十九里浜の保安林では、従来からの松くい虫の被害と2011年3月に発生した東日本大震災の津波の影響により、広範囲にわたる枯死が見られます。

■暮らしの場・まちなみ



屋敷林等がある田園地帯の集落



植草地区



森地区



蓮沼海浜公園



成東城跡公園



さんぶの森公園



成東工業団地



なるとうこども園



道の駅オライはすぬま

### 現況：自然と調和した、にぎわいのあるまちなみ

丘陵地の長屋門や生け垣などに囲まれ周りの山林と一体となった集落、市街地の歴史を感じさせる住宅地、田園地域の屋敷林に囲まれた家々の集落をはじめ、本市の自然環境と調和したまちなみが市内各地で見られます。こうしたまちなみが連続することにより、緑や活気にあふれた沿道景観の創出に貢献しています。

また、さんぶの森公園や成東城跡公園等をはじめ、周囲の自然に溶け込んだ市内各地の公園は、地域に暮らす人々の憩いの空間となっています。

さらに、地域の魅力を発信する拠点である道の駅オライはすぬまや国道126号沿道に広がるストロベリーロードは、地域を特徴づける拠点として、人々に親しまれています。

その他、公共施設をはじめ、計画的に景観に配慮した新しい住宅地や、緑化協定により緑化が図られている工業団地等、近年の建物においても、自然との調和への配慮が伺えます。

### 課題：周辺環境との調和の喪失

周辺の雰囲気と調和しない住宅への建替えや、それに伴う生け垣の喪失、派手な色彩の屋外広告物が多く見られるようになっていきます。

また、空き家や空き店舗、空き地の存在は、駅周辺や住宅地において、まちなみの連続性やにぎわいの喪失につながっています。

その他、雑草の生い茂った歩道、手入れが不足した沿道の木々などが見られます。

■歴史・文化



浪切不動院



伊藤左千夫の生家



大堤権現塚古墳



長光寺のしだれ桜



成東高校の桜の木



伊藤左千夫の歌碑



九十九里教会



賀茂神社の大杉



駒形神社の椎の木

### 現況：地域に根差した多様な歴史・文化

大堤権現塚古墳や山室姫塚古墳をはじめ、丘陵地に多く点在する古墳は、古来より人々がこの地域で生活を営んできたことを表しており、市内で見られるため池からは、古代の海面後退の名残が伺えます。

市内各地に建てられた社寺は、地域の生活文化と密接に関わる存在として、現在も人々に広く親しまれています。中でも、標高30mの石塚山（石塚の森）の中腹に建つ浪切不動院は、その朱塗りの本堂から、本市のランドマークの1つとなっています。

また、上総道学の普及に尽力した稲葉黙齋や鈴木荘内、福祉事業に尽力した大高善兵衛、総武本線開通に尽力した安井理民などの地域の発展に貢献した郷土の偉人に関する史跡が市内各地で見られ、明治から大正にかけて文学や短歌において活躍した伊藤左千夫においては、生家や歌碑等の様々な史跡の他、生涯と作品、遺品、同人たちとの関わりを示す資料等を展示する歴史民俗資料館があります。

さらに、賀茂神社や駒形神社等の各所で見られる古木・巨木からは、広く市内で自然と共生してきた歴史・文化が伺えます。

中でも、樹齢300年の長光寺のしだれ桜や妙宣寺のしだれ桜は、市を代表する桜の名所となっています。

### 課題：歴史・文化に対する関心の希薄化

地域の歴史・文化に対する人々の関心が低下しつつある中、史跡や社寺等が有する、自然との共生の歴史や生活文化の記憶が薄れ始めています。

これにより、地域の自然や歴史・文化と調和したまちなみの喪失につながる懸念されます。

■活動・人の営み



地引網体験交流事業



おだかけ



花植え活動



金刀比羅神社の巫女の舞



稲荷神社の里神楽



本須賀八坂神社例大祭



観察会（成東・東金食虫植物群落）



ぐるっと山武 50 kmウォーク



ロードレース大会

### 現況：特色豊かな行事やイベント、市民活動

里神楽や獅子舞等の伝統行事、田んぼで稲の束を掛け天日乾燥するおだかけや収穫した落花生を畑に野積みにして天日にさらして乾燥させる落花生ボッチなどは、地域の四季を彩る景観として、人々に親しまれています。

また、地域の活性化や自然保護等の観点から、里山・谷津田の保全・再生活動、山林の伐採活動、保安林再生に向けた植樹活動、まちの緑化・美化活動等の他、駅前のにぎわい創出に向けた活動、九十九里浜で盛んに行なわれていた地引網の体験活動等、市内各地で様々な活動が行われています。

さらに、桜めぐりハイキングやサマーカーニバルなどのイベントは、市内外を含め、多くの人が訪れることで、にぎわいのある景観の創出につながっています。

### 課題：担い手不足・交流不足・<sup>なりわい</sup>生業と景観

祭礼への参加意識の低下や後継者不足等により伝統行事の伝承が困難になりつつあります。

また、まちづくり活動においては、参加者の固定化が進む中で、活動規模の低下が懸念されていることに加え、活動に関する工夫や課題解決策を共有できるような、活動団体間の横のつながりが見られない状況にあります。

さらに、これらの行事や活動、イベントは、市内外へのPRとなる一方で、ゴミ捨てなどに見られる人々のモラルの低下が、良好な景観の喪失につながっています。

その他、サンプスギの見られる丘陵地や、広大な田園の景観は、林業や農業という“生業（生活を営むための仕事）”に基づくものですが、時代の流れの中で、生活様式や生産技術等が変化することにより、生業と共に受け継がれてきた景観の喪失が懸念されます。

■眺望



さんぶの森公園グリーンタワーからの眺望



富田みどり里山公園からの眺望



駒形神社からの眺望



成東城跡公園からの眺望



平野部から見る斜面林



蓮沼海浜公園の展望塔からの眺望



九十九里浜からの太平洋の眺め



九十九里海岸の初日の出



平野部から見える富士山

### 現況：広大な空と山林・田園・海岸との調和

山林が広がる標高 40～50m の丘陵地、田園や海岸が広がる平野部という特徴ある地形を有する本市では、各地で眺望を楽しむことができます。

ちば眺望 100 景に選定されている、さんぶの森公園グリーンタワーからは、サンプスギなどの森やニンジン代表とする畑を、蓮沼海浜公園展望台からは保安林と海を、成東城跡公園からは、田んぼ・木々の緑を基調とした、遠くに広がる海までを眺めることができます。

また、平野部においては、広大な空を感じながら、連続する斜面林や田園の広がりを楽しめることができます。

さらに、九十九里海岸からは太平洋の水平線や、広大な空の下でどこまでも続く砂浜を眺めることができます。

その他、河川の堤防や橋からは、背景の山並みや周辺の樹木等と調和したまちなみの広がりを感じることができます。

### 課題：派手な色彩や高さのある建築物や工作物

田んぼや木々の緑を基調とした広がりや違和感を与えるような高さ、形態・意匠、色彩の強い建築物や工作物が一部で見られることにより、良好な眺望が阻害されています。

また、今後そうした建築物や工作物が増えることにより、眺望景観の喪失が懸念されます。